



株式会社トランスジェニック(証券コード 2342)

第9期 報告書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

 **Trans Genic Inc.**

～人々の健康と豊かな暮らしのために～



Trans Genic Inc.

CONTENTS

株主の皆様へ	P2
業績のご報告	P3
セグメント情報	P4
事業領域	P5
製品・サービス一覧	P6
トピックス	P7
研究開発プロジェクト 収益構造の転換	P8
連結財務諸表	P9
個別財務諸表	P11
会社の概況	P13
株式の状況	P13
株主メモ	P14
IRからのお知らせ	P14

経営理念

生物個体からゲノムにいたる

生命資源の開発を通じて

基盤研究および医学・医療の場に

遺伝情報を提供し

その未来に資するとともに

世界の人々の健康と豊かな

暮らしの実現に貢献する

株主の皆様へ



代表取締役社長

是石 匡宏

株主の皆様には日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第9期連結会計年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

当連結会計年度は、遺伝子破壊マウス事業におきまして、製薬企業等からの依頼を受けて、特定遺伝子を破壊した遺伝子破壊マウスを作製する受託業務が製薬企業等のニーズに的確に応えることができ、順調にサービスの提供を拡大することができました。

また、当社グループが作製した生命資源を非独占的に情報提供するビジネスにつきましては、可変型遺伝子トラップ法により大規模・網羅的に作製した遺伝子破壊マウス及び遺伝子破壊ES細胞のライブラリー「TG Resource Bank™」として、当社ウェブサイト上にて公開を開始いたしました。同ライブラリーには、現時点で、640系統の遺伝子破壊マウス及び2,000クローンの遺伝子破壊ES細胞に関する情報を公開し、これらの情報に伴うマテリアルの供給については、さきに締結した、日本チャールス・リバー株式会社との国内での代理店契約に加えて、国外はgenOway社（フランス）と業務提携を行うことに合意し国内外の販売供給網を整えました。これらの結果、遺伝子破壊マウス事業の売上高は284,264千円となりました。

抗体事業におきましては、尿サンプルによる癌診断に利用される高感度免疫学的測定系に関する特許が日本国内において成立した他、GANP遺伝子改変マウスによる高親和性抗体作製技術（GANP®マウス技術）に関連する特許の一部が米国で成立するなど、知的財産権の確保が進んでおります。このような状況のもと、国内大手診断薬メーカーとの間でGANP®マウス技術のライセンス契約を複数、締結できるなど、ライセンス事業が進展いたしました。これらの結果、抗体事業の売上高は75,034千円となりました。

その他、国立大学法人より受託した遺伝子破壊マウスの作製、飼育管理業務による売上高及び子会社化した株式会社プライミュンの売上高など76,267千円を加えた結果、当連結会計年度の売上高につきましては435,567千円となりました。損益は、経常損失が682,049千円、当期純損失が664,241千円となりました。

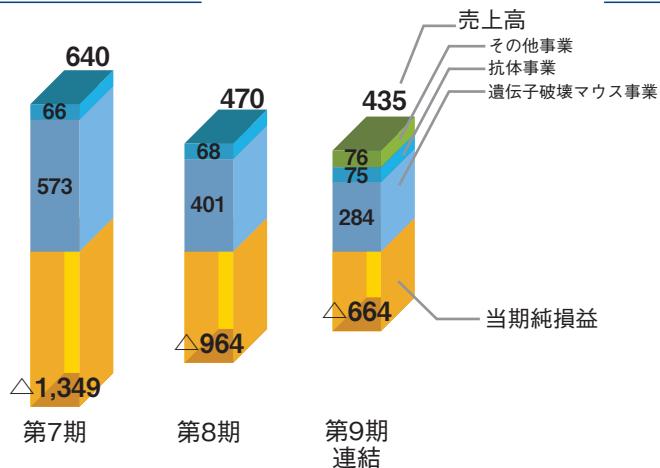
今後は、当社の独自技術である可変型遺伝子トラップ法により大規模・網羅的に作製した遺伝子破壊マウス及び遺伝子破壊ES細胞のリソースの蓄積である「TG Resource Bank™」を活用し、自社での創薬ターゲットの探索・同定に取り組んでまいりますとともに、この蓄積を基にした使用権許諾やこれに伴うマテリアル供給による収益、これまでに蓄積した技術・ノウハウを活用した新規の受託事業及び研究開発の成果としての製品売上、ロイヤリティ収入などの収益を着実に拡大し、一日も早い黒字化を実現させる所存でございます。

株主の皆様におかれましては、こうした当社の姿勢に何卒ご理解を賜り、一層のご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

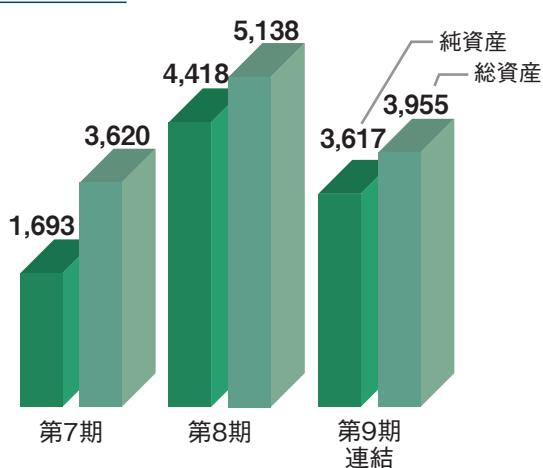
平成19年6月

業績のご報告

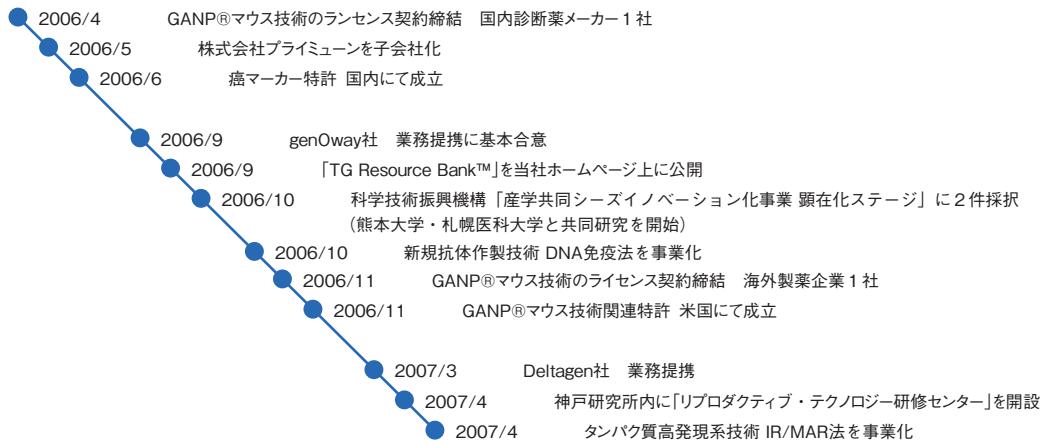
売上高・当期純損益 (単位：百万円)



純資産・総資産 (単位：百万円)



第9期の取り組み



セグメント情報

遺伝子破壊マウス事業

「TG Resource Bank™」を公開し、マウス販売供給網の整備を推進

当社が保有する遺伝子破壊マウスおよび遺伝子破壊ES細胞を、「TG Resource Bank™」として公開しました。今後国内外の製薬企業・研究機関に、これらの生命資源の使用権を有償で提供してまいります。また、使用権許諾に伴うマウスおよびES細胞の供給は、国内は日本チャールス・リバー株式会社、海外はgenOway社*を通じて行います。

海外バイオベンチャーとの提携により製品ラインナップを拡充

海外のベンチャー3社*との提携により、新たな製品・サービスの取扱いを開始しました。今後も引き続き、当社の遺伝子破壊マウス事業に相乗効果をもたらす製品・サービスの拡充に取り組み、遺伝子改変動物関連ビジネスのデファクトスタンダードを目指します。

- *TG Resource Bank™ : 当社が保有する生命資源ライブラリーの呼称
可変型遺伝子トラップ法を用いて作製した遺伝子破壊マウス640系統・遺伝子破壊ES細胞2,000クローンの情報を当社ホームページ上に公開しています
- *genOway社 : フランスリヨンに拠点をもち、遺伝子改変マウスおよびラットモデルを開発・提供する企業
ヨーロッパにおける本分野のリーディングカンパニーとしての地位を確立しています
- *海外ベンチャー3社 : genOway社、JSW-Research社、Deltagen社 各社の製品・サービスについては、6ページをご参照ください

抗体事業

尿サンプルによる癌診断薬の開発 ー複数の診断薬メーカーとのプロジェクトが進展ー

当社が開発した抗ジアセチルスベルミン抗体*ならびに本抗体を用いた基礎測定系のフィージビリティースタディー*が複数の診断薬メーカーにて進行しており、先行する1社では、ライセンス契約を締結し製品開発が開始されました。また、本件に関する特許が国内で成立しました。

GANP®マウス技術ライセンスビジネス ー2社3件のライセンス契約を締結ー

当社独自の技術であるGANP®マウス技術*による抗体について、製薬企業・診断薬メーカーなど19社との間で49件のプロジェクトが進行しています。先行してフィージビリティースタディー*が終了した診断薬メーカー2社との間で3件のライセンス契約を締結しました。また、本技術に関する基本特許の一部が米国にて成立しました。

技術プラットフォームの拡充・強化ー先端技術を導入し、事業化ー

抗体作製関連の技術プラットフォームを強化しています。この取り組みの成果として、DNA免疫法*、タンパク質高発現系技術 IR/MAR法*を導入し、事業化しました。

- *抗ジアセチルスベルミン抗体 : 7ページをご参照下さい
- *フィージビリティースタディー : 事業化についての可能性を、あらゆる角度から検討すること
- *GANP®マウス技術 : 7ページをご参照下さい
- *DNA免疫法 : 遺伝子を動物に投与し、その動物の体内で抗原を発現させることにより、抗体を作製する技術
- *タンパク質高発現系技術 IR/MAR法 : 遺伝子を増幅させることにより、大量にタンパク質を生産する技術

その他事業

株式会社プライミュオンを子会社化

研究用試薬サイトカイン*の販売を行う株式会社プライミュオンを子会社化しました。

蓄積された技術・ノウハウを活用し、新たな受託業務を開始

国立大学法人 熊本大学から、遺伝子改変動物飼育管理業務を受託しました。

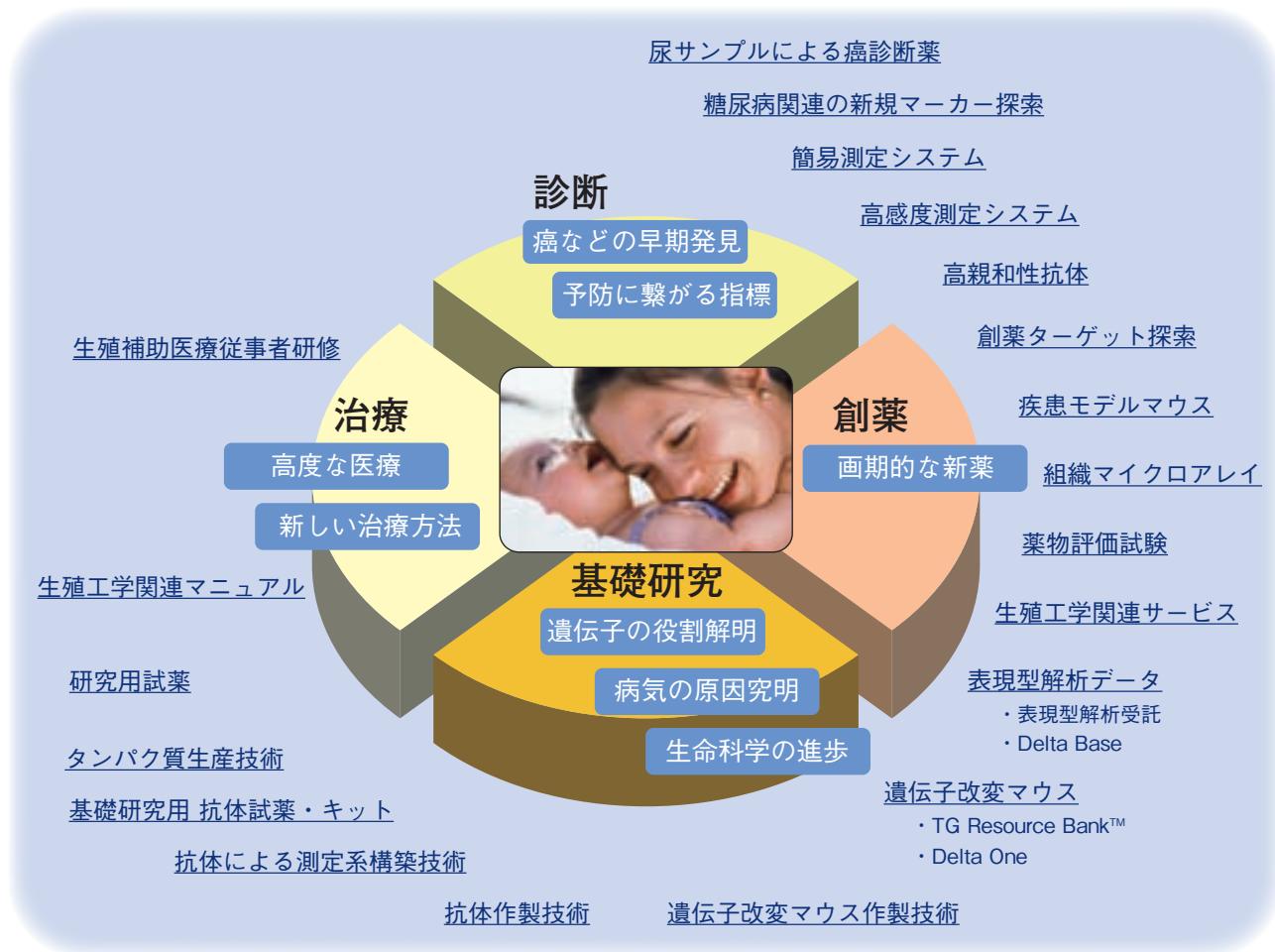
生殖工学関連の技術*・ノウハウを活用し、研修事業を開始

神戸研究所内に「リプロダクティブ・テクノロジー研修センター」を開設し、生殖補助医療や動物実験の従事者を対象とした研修事業を開始しました。

- *サイトカイン : 組換えタンパク質生産・精製技術を利用した製品。研究用試薬として、癌免疫療法分野への販売が好調に推移しています
- *生殖工学関連の技術 : 実験動物・産業動物の分野だけでなく生殖補助医療分野でもそのニーズは高まっています
特に不妊治療において医師をサポートする生殖補助医療胚培養士には高い技術レベルが求められています

事業領域

トランスジェニックは、基盤研究および医学・医療の場に
新しい価値を創造する製品・サービスを提供し、
健康と豊かな暮らしの実現に貢献します



製品・サービス一覧

創薬・診断・基礎研究・治療の領域に下記の製品・サービスを提供しています。

なかでも、将来ライセンス収入が見込めるビジネスに積極的に取り組んでいます。

分類	製品・サービス	特徴・現状など	今後
中長期的展開	遺伝子破壊マウスを用いた創薬ターゲットの探索 アステラス製薬株式会社・住友化学株式会社との取組み	各社にて遺伝子破壊マウスを用いた研究開発が進行しています。配列及び表現型解析の情報開示は完了し、現在、創薬ターゲット遺伝子の絞り込み段階にあります。既に、11系統は継続的使用権を許諾し、うち2系統は各社と共同で特許を出願しています。	製品開発に進展した時点でマイルストーンフィーが獲得できます。また医薬品として発売された後は、継続的なランニングロイヤリティの獲得が期待されます。
	TG Resource Bank™ 遺伝子破壊マウス・遺伝子破壊ES細胞	可変型遺伝子トランプ法により作製した生命資源（遺伝子破壊マウス640系統・遺伝子破壊ES細胞2,000クローン）の情報をホームページ上に公開し、系統毎の使用権を許諾しています。	国内外の代理店（日本チャールズ・リバー株式会社、genOway社）と連携し、広く使用権の許諾を行います。
	尿中癌マーカー「ジアセチルスヘルミン」に対する高親和性抗体及び測定系		詳細は7ページをご参照下さい
展開	GANP®マウス技術による高親和性抗体		詳細は7ページをご参照下さい
	研究用試薬 抗体・抗体を用いた測定キット	研究用試薬として、モノクローナル抗体36品・ポリクローナル抗体84品・測定キット4品を販売代理店を通じ国内外に販売しています。	今後も糖尿病をはじめとするメタボリックシンドロームに関連する製品群などを重点的に開発してまいります。また、代理店との連携を強化し、販売促進に努めてまいります。
当社ビジネス	遺伝子改変マウス作製	顧客が求める遺伝子破壊マウスをジーンターゲット法により作製し、提供しています。	
	マウス表現型解析	遺伝子改変動物の変化（表現型）を詳細に解析し、データを提供しています。	良好な実績を評価され、順調に受注数が増加しています。さらに、メニューの多様化を図り、より顧客のニーズに合うサービスの充実を努めてまいります。
	GANP®マウス技術による高親和性抗体作製	GANP®マウス技術を用いて顧客の用途に応じた抗体を作製し、提供しています。	抗体作製の実績が評価を受け、順調に受注数が増加しています。短期的な収益の基盤となるよう営業活動を強化してまいります。
	DNA免疫法による抗体作製	行動医学研究所より技術導入し、事業化しました。遺伝子を直接動物に免疫して抗体を作製し、提供しています。	GANP®マウス技術との組み合わせなど、より付加価値の高い抗体の作製に活用します。
	タンパク質生産技術 IR/MAR法によるタンパク質生産	広島大学より技術導入し、事業化しました。哺乳類の細胞を用いて、目的のタンパク質を効率的に生産し、提供しています。	2007年4月より事業を開始しました。より広い分野で活用されるよう事業を展開してまいります。
	生殖工学研修	当社の技術・ノウハウを、生殖補助医療や動物実験の従事者に、研修という形で提供しています。	2007年4月より事業を開始しました。研修内容の多様化・充実を図ってまいります。
	遺伝子改変動物飼育管理業務	実験動物施設における遺伝子改変動物の飼育管理業務を提供しています。	技術水準・作業効率について評価を受けています。継続的な受注を目指します。
提携ビジネス	Deltagen社	創薬研究に特に有用と考えられる遺伝子破壊マウス900系統の使用権、うち750系統についての表現型解析データベース閲覧権を提供しています。	当社事業に相乗効果をもたらす製品・サービスを提供し、遺伝子改変動物関連ビジネスのデファクトスタンダードを目指します。
	genOway社	マウスやラットについて、各種の遺伝子改変動物サービスを提供しています。	
	JSW-Research社	遺伝子改変動物を用いた中枢神経系に関する前臨床薬物評価試験を受託しています。	
	疾患モデルマウス	アトピー性皮膚炎マウス・体内時計異常夜型マウスなどのモデル動物を提供しています。	
	TriStar社	有用な情報が付加された高密度・高品質の癌組織標本を20,000種類保有しており、顧客の求めるマイクロアレイを製造し提供しています。	癌治療薬を開発する製薬企業等を対象とし、マーケティング活動を行っています。



遺伝子破壊マウス



TG Resource Bank™



遺伝子改変マウス作製



研究用試薬



GANP®マウス



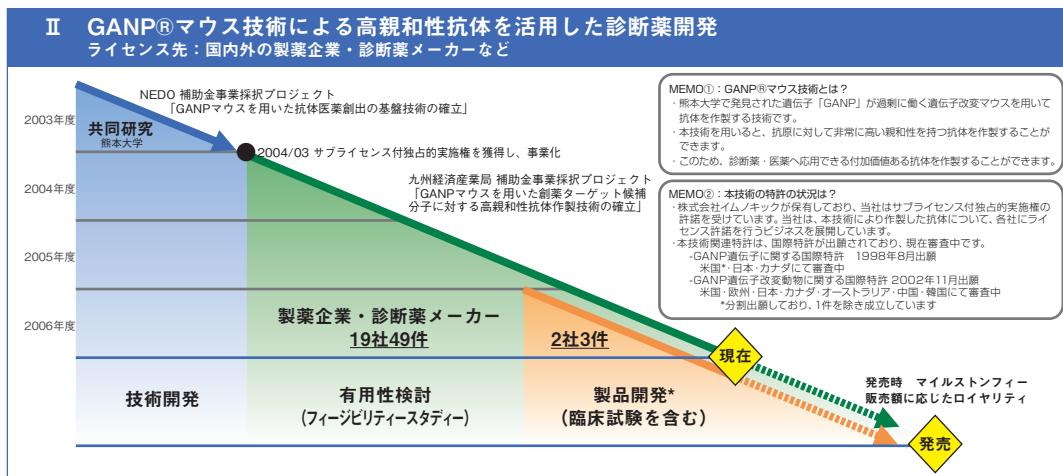
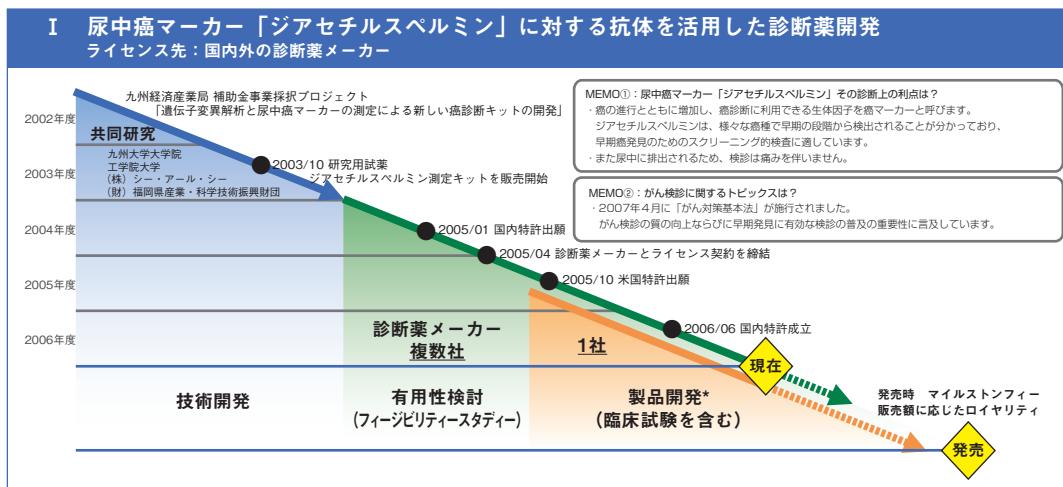
生殖工学研修



動物飼育管理

トピックス：当社技術による診断薬開発の状況

株主の皆様より多くのお問い合わせをいただきました。診断薬開発についての当社の取組みについて、プロジェクトの始まりから、これまでの成果および今後の見通しについて、ご説明させていただきます。
 なお、これらの取組みは、大学で生まれた基礎研究の成果を事業化しようとするものであり、今後も引き続き、大学などの研究機関との連携を強化してまいります。



*一般的に 診断薬の製品開発（臨床試験を含む）に要する期間は、3～5年であるといわれています。

研究開発プロジェクト

遺伝子の機能を解明することは、新たな創薬ターゲットの発見、診断・治療方法の開発に貢献します。この研究のための有力なツールとして、当社の「遺伝子改変マウス」や「抗体」が活用されています。当社のコアコンピタンスは、「遺伝子改変マウスを作製する技術」「遺伝子改変動物の変化（表現型）を詳細に解析する技術」また「抗体を作製する技術」「抗体を用いて測定系を構築する技術」以上4つの要素技術です。皆さまの健康と豊かな暮らしの実現に向けて、これらの要素技術を活用し、研究開発を進めるとともに、その過程で獲得した有用な技術を用いて短期的な収益となる事業にも取り組んでいます。

研究開発Ⅰ コアコンピタンスの強化とともに、短期的な収益にも繋がる技術開発

当社の要素技術を強化する新規技術

プロジェクト1： タンパク質量産化技術 IR/MAR法の導入検討（2007年4月終了、事業化）

プロジェクト2： 抗体関連のタンパク質工学的手法の開発

プロジェクト3： 実験動物関連新規技術の開発

プロジェクト4： 研究用試薬 ラインナップ拡充

研究開発Ⅱ エンドプロダクト（医薬品・診断薬）の創出に貢献する研究開発

創薬ターゲット探索・同定を目指して

プロジェクト1： オーフアン受容体の機能解析

プロジェクト2： 臓器特異的に発現している遺伝子の探索

プロジェクト3： ヘテロダイマー認識抗体の作製

診断薬開発を目指して

プロジェクト1： 尿中癌マーカー簡易測定システムの開発

プロジェクト2： 糖尿病関連測定システム構築

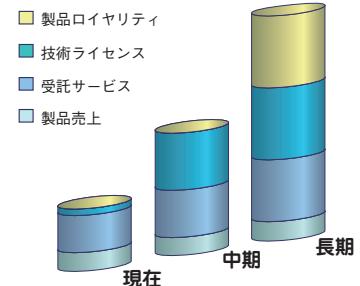
プロジェクト3： 新規癌マーカーとその測定システム開発

収益構造の転換

ライセンスビジネス推進による収益構造の転換

ライフサイエンス産業においては、事業の中核をなす知的財産の確保が成功への鍵といえます。当社は自社単独の技術開発に加え、社外からのライセンスインを積極的に進め、製薬企業などの製品開発に用いられる技術を開発してまいります。

さらに、技術を提供するだけでなく、エンドプロダクト（医薬品・診断薬）の創出に直結する創薬ターゲット・診断薬シーズの探索を行っており、技術ライセンス収入に加えて、製品ロイヤリティが将来の収益基盤として寄与することが期待されます。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度 平成19年3月31日現在
(資産の部)	
流動資産	3,042,176
固定資産	913,726
有形固定資産	578,998
無形固定資産	226,473
投資その他の資産	108,254
資産合計	3,955,903
(負債の部)	
流動負債	338,446
負債合計	338,446
(純資産の部)	
株主資本	3,614,593
資本金	4,855,225
利益剰余金	△ 1,238,849
自己株式	△ 1,782
少数株主持分	2,864
純資産合計	3,617,457
負債純資産合計	3,955,903

POINT

平成18年5月に株式会社プライミューンを子会社化したことに伴い、今期より連結決算を開始しました。

そのため、前期との比較を行っておりません。

連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	435,567
売上原価	229,156
売上総利益	206,410
販売費及び一般管理費	877,340
営業損失	670,929
営業外収益	33,844
営業外費用	44,964
経常損失	682,049
特別利益	27,423
特別損失	2,438
税金等調整前当期純損失	657,064
法人税、住民税及び事業税	6,811
少数株主利益	365
当期純損失	664,241

POINT

●連結売上高内訳

(単位：千円)

遺伝子破壊マウス事業	284,264
抗体事業	75,034
その他事業	76,267

連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

当連結会計年度 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

	株 主 資 本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主 持 分	純 資 産 合 計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成18年3月31日 残高	4,855,225	4,917,755	△5,492,363	△ 1,782	4,278,834	30,276	—	4,309,111
連結会計年度中の変動額								
欠損てん補のための 資本剰余金の取崩し		△4,917,755	4,917,755		—			—
当期純損失			△664,241		△ 664,241			△ 664,241
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△ 30,276	2,864	△ 27,412
連結会計年度中の変動額合計	—	△4,917,755	4,253,513	—	△ 664,241	△ 30,276	2,864	△ 691,653
平成19年3月31日 残高	4,855,225	—	△1,238,849	△ 1,782	3,614,593	—	2,864	3,617,457

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	当連結会計年度 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 528,843
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,240,915
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 324,000
現金及び現金同等物の増減額	1,388,071
現金及び現金同等物の期首残高	583,894
現金及び現金同等物の期末残高	1,971,965

個別財務諸表

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	前期	当期
	平成18年3月31日現在	平成19年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	4,239,951	3,016,379
固定資産	898,923	942,569
資産合計	5,138,875	3,958,949
(負債の部)		
流動負債	565,908	337,469
固定負債	154,523	—
負債合計	720,431	337,469
(資本の部)		
資本金	4,855,225	—
資本剰余金	4,917,755	—
利益剰余金	△ 5,383,031	—
その他有価証券評価差額金	30,276	—
自己株式	△ 1,782	—
資本合計	4,418,444	—
負債資本合計	5,138,875	—
(純資産の部)		
株主資本	—	3,621,480
資本金	—	4,855,225
利益剰余金	—	△ 1,231,962
自己株式	—	△ 1,782
純資産合計	—	3,621,480
負債純資産合計	—	3,958,949

POINT

- 流動資産の減少
主に短期運用目的の有価証券が減少しました。
- 投資資産の増加
株式会社プライミューンの株式取得等により増加しました。
- 流動負債の減少
主に社債の期日償還により減少しました。
- 固定資産内訳

(単位：千円)

	前期	当期
有形固定資産	590,400	578,998
無形固定資産	33,432	16,951
投資その他の資産	275,090	346,619

株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	当期 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)					株主資本合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成18年3月31日 残高	4,855,225	4,917,755	△ 5,383,031	△ 1,782	4,388,167	30,276	4,418,444	
事業年度中の変動額								
欠損てん補のための 資本準備金の取崩し		△ 4,917,755	4,917,755		—		—	
当期純損失			△ 766,687		△ 766,687		△ 766,687	
株主資本以外の項目の事業年度 中の変動額(純額)						△ 30,276	△ 30,276	
事業年度中の変動額合計	—	△ 4,917,755	4,151,068	—	△ 766,687	△ 30,276	△ 796,963	
平成19年3月31日 残高	4,855,225	—	△ 1,231,962	△ 1,782	3,621,480	—	3,621,480	

損益計算書

(単位：千円)

科 目	前 期	当 期
	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売 上 高	470,127	395,845
売 上 原 価	314,727	220,635
売 上 総 利 益	155,400	175,209
販売費及び一般管理費	1,075,697	856,557
営 業 損 失	920,297	681,348
営 業 外 収 益	20,625	50,126
営 業 外 費 用	28,732	9,698
経 常 損 失	928,404	640,919
特 別 利 益	—	17,840
特 別 損 失	30,145	137,002
税引前当期純損失	958,550	760,082
法人税、住民税及び事業税	5,773	6,604
当 期 純 損 失	964,323	766,687

POINT

●売上高内訳

受託業務による売上高は順調に増加しましたが、遺伝子配列情報の提供が前期をもって完了したことに伴い、前期と比較し売上高は減少しました。

(単位：千円)

	前期	当期
遺伝子破壊マウス事業	401,976	284,264
抗体事業	68,151	75,034
その他事業	—	36,545
売上高 合計	470,127	395,845

●販売費及び一般管理費

遺伝子破壊マウスの大規模作製にかかる費用が減少した他、全社的なコストコントロールにより販売費及び一般管理費は減少しました。

●営業外収益

補助金の導入等により営業外収益は増加しました。

●経常損失

売上高は減少したものの、経常損失は前期比にて287百万円減少しました。

会社の概況 (平成19年3月31日現在)

会社名	株式会社トランスジェニック TransGenic Inc.
ホームページ	http://www.transgenic.co.jp
設立	平成10年4月
資本金	4,855百万円
従業員数	45名
事業所	
本社	熊本市南熊本三丁目14番3号
福岡支店	福岡市中央区天神一丁目1番1号
神戸研究所	神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
宇土研究所	熊本県宇土市栗崎町1285番地
東京オフィス	東京都中央区京橋三丁目9番2号

役員

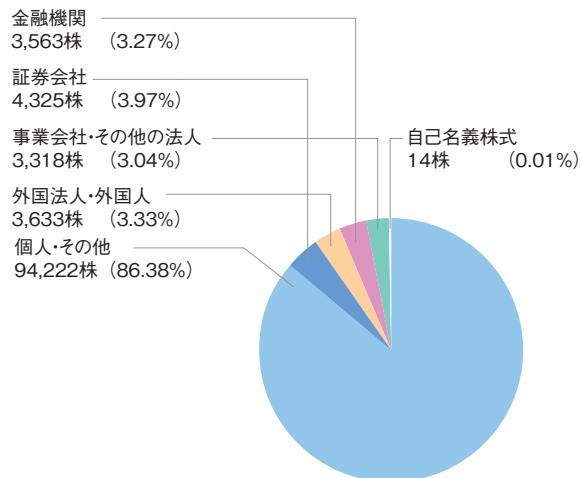
代表取締役社長	是石 匡宏
専務取締役	田中 淳
取締役	佐藤 道太
取締役(非常勤)	山村 研一
常勤監査役	松尾 靖彦
監査役	遠藤 了
監査役	梶間 俊男

株式の状況 (平成19年3月31日現在)

発行可能株式総数	436,301株
発行済株式の総数	109,075株
株主数	13,841名
大株主の状況	

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
是石 匡宏	3,920	3.59
日本生命保険相互会社	1,350	1.23
モルガン・スタンレー証券株式会社	1,272	1.16
第一生命保険相互会社	1,050	0.96
大阪証券金融株式会社(業務口)	949	0.87
ユービーエスエイジーロンドンアジアアクティーズ	916	0.83
電源開発株式会社	900	0.82
SBIイー・トレード証券株式会社自己融資口	800	0.73
佐賀 芳行	800	0.73
ドイチェバンクアーゲーロンドン610	794	0.72

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日

定時株主総会・剰余金配当 毎年3月31日

中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

野村證券株式会社 全国本支店

公 告 方 法 電子公告（当社ホームページに掲載）

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

Trans Genic Inc. IRからのお知らせ

当社ホームページIR情報掲載ページのご案内

株主の皆様当社についてよりご理解いただきたく、当社ホームページ内「ニュースリリース」「IR情報」にて、IR関連情報を公開しています。

ホームページ

<http://www.transgenic.co.jp/>



「メール配信サービス」をご利用ください

当社ホームページにアクセスしていただき、ご登録いただくと、当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールにてお知らせします。（ご登録・購読無料）この機会にぜひご登録ください。

ご登録はこちらへ

http://www.transgenic.co.jp/jp/ir/mail_regist.html

メールアドレス変更の際にも、こちらよりご連絡ください

ご意見・ご感想をお聴かせください

下記アドレスへのご連絡、お待ちしております。

ir@transgenic.co.jp



この報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆インキを使用しております。